# 梅池から栂海新道

**2016年5月2日(月)～4日(水)**

**メンバー:池田T(リーダー)、佐藤**

---

雪の世界から新緑の世界、そして青い海へと素晴らしい山旅だった。泊まった2カ所の小屋での人との出会いも良かった。
2泊3日で行けたのは二人の足並みが揃っていたことが大きいが、先人のトレースや夏道に助けられたのも確かである。

5/2(月) 晴れ時々曇り。稜線上では強風
梅池ロープウェイ自然園駅8:43－船越ノ頭12:30－小蓮華山13:20~13:29－三国境14:00－雪倉岳避難小屋16:10 [7時間27分]

【自然園駅～船越ノ頭】
ロープウェイの駅を出て小蓮華山の手前のピーク、船越ノ頭(2612m)をダイレクトに目指す。
梅池自然園は湿原の一部が露出しており、その周辺はロープが張られていた。まもなく水芭蕉が出てきそうだ。
船越ノ頭に近くなると傾斜が急になってくる。やがて単独行者に追い抜かれた。 彼はしばらく前から我々のトレースを使ってきたようだが、今度は我々が彼のトレースを使わせてもらう。
稜線に上がると結構な風が吹いていた。

【船越ノ頭～小蓮華山～三国境】
一部で夏道が出ているが、概ね雪に覆われている。
小蓮華山のピークから白馬岳の主稜を眺めると山頂直下はほぼ垂直に見える上に、屋根のような雪庇も出ている。
10年以上前のことではあるが、よくもあんな所を登ったものだと思う。
当初の計画では白馬岳をピストンした後に三国境に幕営することにしていたが、 稜線上の風が強烈なのと明日の後半から悪天候の予報が出ていたので、少しでも先に進むために白馬岳はカットした。

小蓮華山への稜線

【三国境～雪倉岳避難小屋】
小蓮華の稜線上にはチラホラ人がいたが、三国境から北に向かうのは我々だけのようだ。トレースは無い。
稜線を下って行くとやがて雪が切れて「鉱山道分岐」の手前からは完全に夏道になり、アイゼンは外す。この先もアイゼンは何回も付けたり外したりすることになる。

鉢ヶ岳は西斜面をトラバースしていく。たっぷり雪が残っていて夏道は出ておらず、途中ではハイマツのヤブ漕ぎもあった。
トラバースが終わって尾根上に戻るとやがて夏道と合流。間もなく石垣に囲まれた雪倉岳避難小屋が見えてくる。
明日の事を考えればもっと先に進みたい所ではあるが、二人とも疲れていたのと、強風を避けられる幕営適地がしばらく無さそうなので、 今晩は小屋に避難させてもらうことにする。

小屋の扉を開けると先客がいてお互い少し驚いた。単独行のその男性は我々とは逆方向から縦走してきたとのこと。 やがて男女1名ずつのパーティーも小屋に入ってきた。彼らも親不知から歩いてきたと言う。
彼ら3人からはルートに関する貴重な情報に加え、「我々のトレースがあるよ」と心強い励ましも頂いた。
明日の夕方から天候が荒れる予報が出ているので早めに出発して15時には梶海山荘に着きたい。
吹上のコルから黒岩山の区間は地形が複雑なため、視界不良になったら行動不能になる。緊張感と風の音であまり眠れなかった。

雪倉岳避難小屋

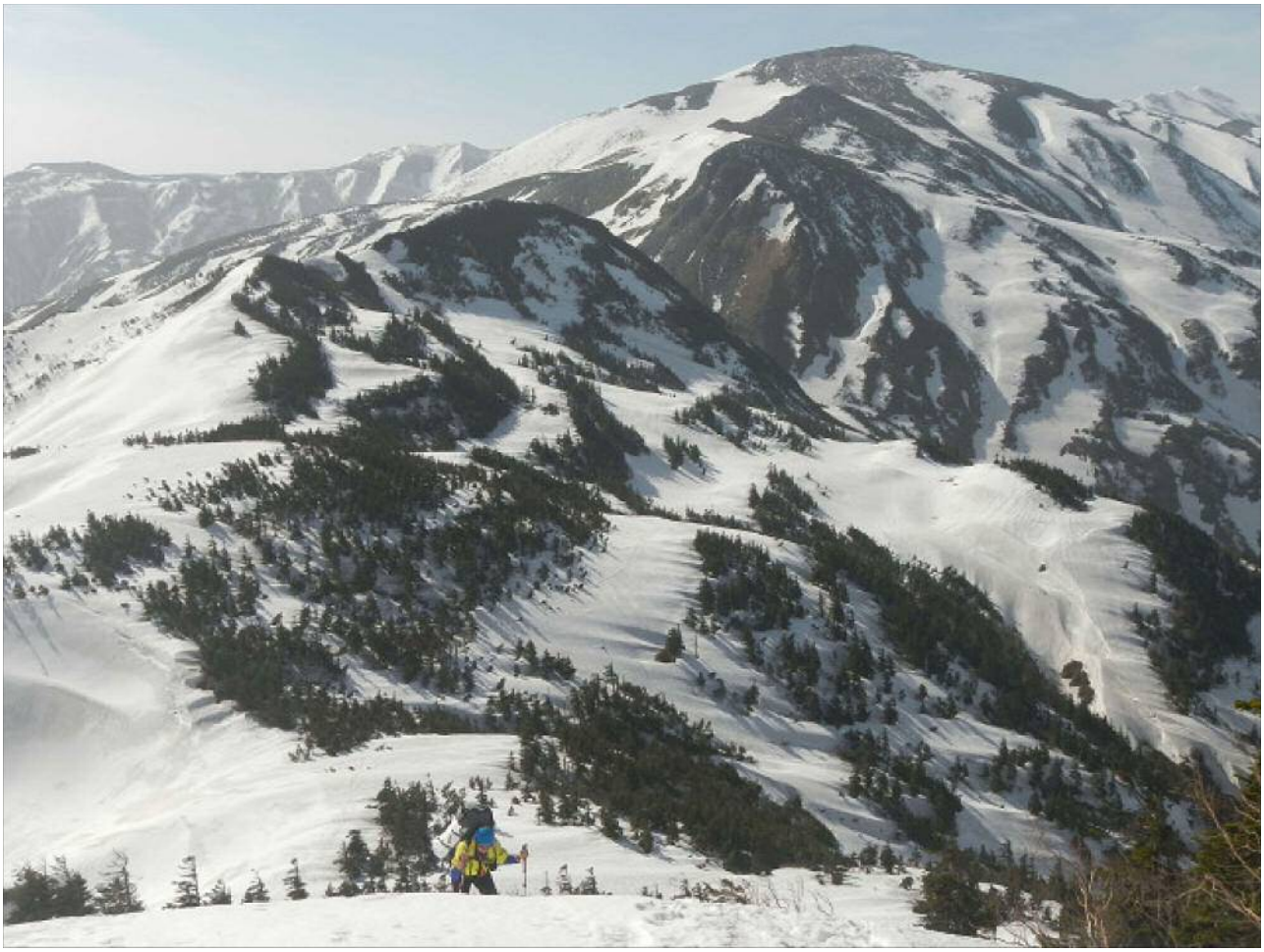
5/3(火) 晴れのち曇り 夜は雨
起床 2:30~避難小屋3:58－雪倉岳4:48~4:52－朝日岳8:53~8:58－長梅山10:00~黒岩山11:43~11:51－サワガニ山12:36－犬ヶ岳14:43~14:51－梅海山荘14:58
[11時間]

【避難小屋～雪倉岳～朝日岳】
強風は未明に治まり、空には星が出ていた。 天気が予報よりも早く悪化するリスクは考えたが、長梅山あたりから先は樹林があると聞いたのでいざとなったら幕営すれば良いと判断して先に進むことにした。
ただ、もしも強風が朝になっても治まらず、彼らからの情報も無かったら梅池に引き返していたと思う。

雪倉岳山頂まではほぼ夏道。1カ所だけ急な雪の斜面があった。山頂からの下りもしばらくは夏道。
崖を避けるために一旦稜線を外れると再び雪の斜面になる。トラバースの途中で男性2名のパーティーとすれ違った。 これ以降、梅海新道の縦走者とは会わなかった。我々と同じ方向に縦走するパーティーとは最初から最後まで出会わなかった。

赤男山に向かって複数のトレースが続いている。が、だんだん少なくなってついにはほとんど消えかかった一本になった。
夏道のようにトラバースするつもりであったが、まっすぐ行くトレースに何となく誘われてしまった。
このまま赤男山のピークに登ったらダメということはないが、多くのパーティーはどこかでトラバース道に入ったようである。
稜線を少し戻って西の斜面を降りるとやはりトレースがあった。やがて夏道が断続的に現れてきた。

トラバースが終了すると今度は朝日岳への登り。苦しい登りが延々と続く。足を雪に蹴り込んでとにかく一歩一歩登っていく。
やがて傾斜は緩やかになり広場のような山頂に到着した。



朝日岳を登高中。バックは雪倉岳

【朝日岳～長妻山～黒岩山】
　朝日岳は最後の引き返しポイント。今のところ天気は良いし、時間的にも問題ない。ここまで来たら日本海目指して進むのみ。
吹上のコルを過ぎると明瞭な稜線ではなくなり、広い雪原となる。
長梅山を過ぎてアヤメ平から黒岩平のあたりが特に複雑。地形を眺めて最適と思われるルートを選択しなければならない。
夏道は深い雪の下で先行者のトレースも薄いので濃霧で視界が無かったらGPSを持っていても先に進むのは困難だろう。
雪の壁や吹き溜まりが邪魔するので必ずしも夏道通りに進めるとは限らないのだ。

朝日岳の山頂にて

長栂山近辺

アヤメ平・黒岩平の向こうに犬ヶ岳に向かう稜線が見える

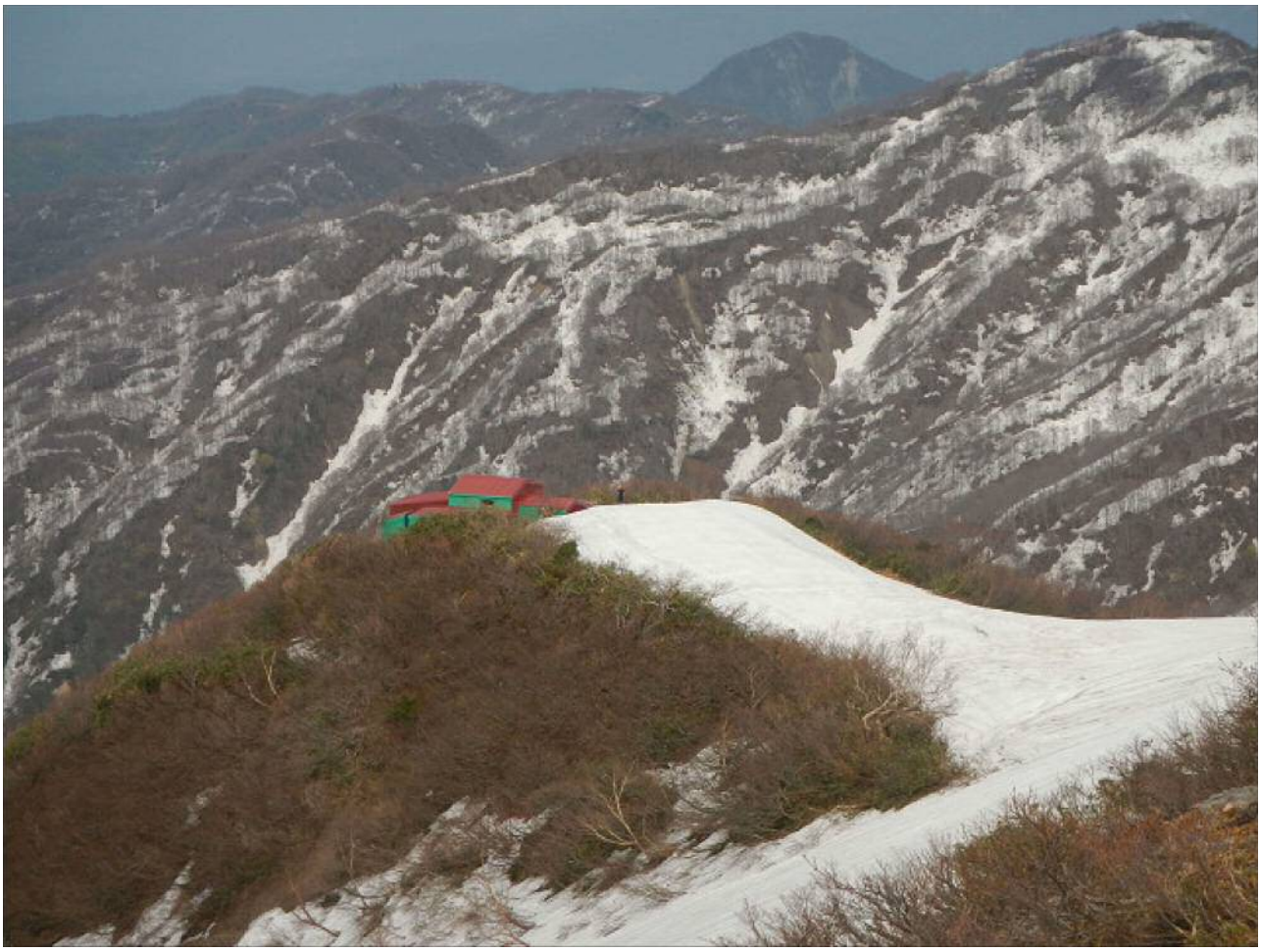
黒岩平を振り返る

【黒岩山～サワガニ山～犬ヶ岳(栂海山荘)】
黒岩山から先はルートが明瞭だと彼らに聞いていたが、その通りだった。核心部を終えてホッとした。
目指す犬ヶ岳とはほとんど標高差は無いが、小さいアップダウンが途中にいくつもある。
稜線上は夏道が出ている所が多いが、右(西)側が雪庇になっている雪稜もあり、気は抜けない。

今日の最後のピーク、犬ヶ岳に着いてホッと一息。歩いてきたルートを振り返る。
栂海山荘では今日小屋入りしたという管理人さんが出迎えてくれた。他の登山者はおらず、楽しく快適に過ごさせてもらった。
夜半から寒冷前線通過に伴う強い雨。小屋に泊まれて本当に良かった。今回の山行のヤマ場を過ぎた安心感でぐっすり眠ることができた。

サワガニ山

犬ヶ岳山頂から歩いてきた稜線を振り返る



犬ヶ岳山頂から見える栂海山荘

5/4(水) 雨のち晴れ、風強し
起床3:00~栂海山荘4:45－白鳥小屋8:33~8:45－坂田峠10:42~10:49－尻高山11:25~11:34－入道山12:33－親不知海岸13:39~14:14－親不知駅15:26～16:51＝糸魚川17:02～20:13＝南小谷駅21:13＝(タクシー)＝栂池高原
[8時間54分]栂海山荘から海岸まで

【栂海山荘～白鳥山】
朝方、まだ弱い雨は残っていたが、霧がだんだん晴れてきて回復の傾向。管理人さんに見送られて出発する。
白鳥山まではアップダウンが何回もあるが一番キツかったのは下駒ヶ岳。とにかく急で、クライミングのようだった。
そこを下った後も白鳥山への大きな登り返しがある。雨はすっかり上がったが風は相変わらず強い。途中で４～５人組のパーティーとすれ違った。
白鳥山に着くころには青空が広がり、さわやかな感じになった。小屋の中はとてもきれいで居心地が良さそうだった。

白鳥山荘

【白鳥山～坂田峠～日本海】
　白鳥山から先も意外に雪があった。また、尾根が広かったり複雑だったりして、木に付いている赤布には助けられた。
シキ割を過ぎたあたりで雪は消え、新緑が目立つようになる。
坂田峠への下りはかなり急である。途中で会った人たちは皆ここを登ってきたわけで本当に感心する。
峠には全く雪は無く、栂海山荘の管理人さんはここまで車で来たと言っていた。
峠から尻高山まで登り返す。このあたりからブナが目立つようになる。若葉が緑あざやかだ。
その後、二本松峠、入道山と通過してついに国道８号線に出た。遊歩道を降りて海岸へ。
佐藤さんと握手を交わす。靴を脱いで裸足になると開放感と達成感で一杯になった。

海へ

新緑とツツジ

登山道は終了！

やっと着いた日本海

以上